

ぬ
く
た
ん

「温」がテーマのぬくもり短歌集
2016年 冬

2016年冬「温」がテーマのぬくもり短歌集 ぬくたん
発行：2016.01.18 | 短歌・タイトル案：ご投稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ

はりと 勇
ふえちしずえ 笛地静恵
ふくやまももか 福山桃歌
ふじたみか 藤田美香
ふじわらけい 藤原螢
ふるいひさしげ 古井久茂
ほしのさいくる 星野さいくる
ほたるこ 螢子
ますだたつろう 増田達郎
まよなか 真夜中
みかげことは 深影コトハ
みかげもね 三日月百嶺
みなみるか 南瑠夏
みみ 衣未
みやとまいつく 宮嶋いつく
むぎのゆか 麦野結香
むらたかおる 村田馨
もちつきまりは 望月万里葉
もりもとなおき 森本直樹
やまもとひだりあし 山本左足
よしかわみほ 吉川みほ
ルオ

しおたにふうげつ 塩谷風月
しまだくらこ 嶋田さくらこ
じやくまめ 雀來豆
たえなかずず たえなかずず
たかはしじゅん 高橋純
たかはねるき 貴羽るき
たかまつさとこ 高松紗都子
たけいさちこ 竹井佐知子
た た
ちこりん 知己凜
ちはらこはぎ 千原こはぎ
つきおかないる 月丘ナイル
つきした さくら 月下 桜
て こ
とがわさくえ 外川菊絵
ながつきゆう 長月優
なかわらせいと 中村成志
ながやまゆき 永山雪
なつきゆう 奈月遥
にしむらあきら 西村曜
はせがわゆうじ 長谷川悠治

あおい あかり 蒼井 灯
あめ 雨
ありむらききょう 有村桔梗
いしかわじゅんいち 石川順一
いだなお 井田直
うしりゆうすけ 牛隆佑
えいじ 泳二
おおきはち 大木はち
おがわまどこ 小川窓子
かいざわしゅんいち 貝澤駿一
かわせ 柏瀬
かづき 葛紗
かぜのみずと 風野瑞人
かりみね 借みね
かれいど 枯れ井戸
きつね 木原ねこ
くじょうしよーこ 九条しよーこ
こうむらかな 香村かな
こぎともり 漕戸もり
こちめかり 東風めかり
さきたにかな 笹谷香菜

(五十音順 敬称略)

66名による396首の「温」がテーマの短歌集

ぬくたん

あたたかい場所

カフェオレはゆっくり冷えていきながらまたコーヒーとミルクになった
命あるものごとごとく冷たくて百均で買うあったかカイロ
増税とともに段々伸びてゆくあったか「」の部分
お弁当あたためますか真つ暗な帰り道でも凍えぬように
幸せになりたいけれどあたたかい場所に行くたび眼鏡が曇る
意味なんか無いけど泣いていいですか電子レンジがチンと鳴るまで

山本左足 @hidariashiy

とけてゆく音

雪色の電気毛布はあたためる卵のうちの明るい気配
ながいながいながい Robe を引きながらわたしの熱の光る足跡
またひとつ銀のフォークの消息を白いシチューの沼に問いかけ
ああ、あなた また雲の顔になっている 記憶のほどける境目にいる
あたたかな国へと飛んでゆく鳥よフアーフアーって鳴きながら飛ぶ
磨りガラスの空とけてゆく音がするゆっくりすべっておちてゆく音

吉川みほ @books_hyacinth

距離が遠う日

雪払い上がる座敷は満員でいつも隣の背中が遠い
日本酒の名前で囁んだ高い声やっぱりに頼ませるんだ
先輩に温いカクテル勧められ辛さに慣れたことに気付いた
鍋よそい今夜初めて目が合って逸らされる意味湯気で見えない
珍しくふらつく人に肩貸して回された手が熱くて重い
駅までの道で吐く息濃く近く家行つていい？なんて尋ねる

ルオ @ruo129

66 persons, 396 tanka

記憶の記録

ぬくもりは飛び立ちもせず^{たのち}掌に病名ひとつ増える夕刻
黒線の書類携えここに熱をのこしたあなたのそばに
横に来て共に号泣した君が指に落とした約束ひとつ
饅頭の天ぷら揚げるばあちゃんの指も詛りも刻まれている
触れた指約束なんて忘れませす 打ち消すように風花は舞う
背中越し伝わる熱は饒舌でうなずきながら握るコート

麦野結香 @yuka_mikut

ラジオ

元日の深夜に妻の音がする百人一首を読む妻の声
アンカーの中村アナの合いの手がリスナーたちの心をほぐす
はじめての付句に挑む九歳児「今年こそはと日の出に誓う」
スタジオのいまの温度はどれほどか留守番の子に暖房の風
もう一杯お茶を淹れよう特別に夜おそくまで起きてもいいよ
「ただいま」と慶子の声が聞こえたら村田家はすぐあたたかくなる

村田馨 @kaoru_murata

餅がくつつくつ煮えている

体調がよければいこう寝静まる窓よりあかい焚き上げをみる
子を抱いた同期の賀状みた母が声をころして泣いているあさ
冷凍のおせちのとなり大根の澄んだお雑煮ふわり湯気たつ
てっぺんの柚子皮ほろりつつ染みてかすかに放つ香りの涼し
おばちゃんくれたかまぼこ早よ食べね リウマチの手がつつむ保冷剤
この部屋がいかにあたたかだったかを知らずに過ぎる一年であれ

蒼井 灯 @heavenlyblueb

ひとはだ程度で火傷したまえ

ふかふかはしてないつるんとした人よ来て、湯たんぽごっこしよう
私でない名前を呼ばれた日に触れるお湯の温度はひとはだ程度
一度だけママと呼ばれた気がしたのビーカー内の蛙の卵
舌先に消えないキスをくれたきみシチューの熱で火傷したまえ
やんわりと真綿で首を絞められるような言葉ね「僕じゃ駄目かな」
手の届く場所に居ないでください触れちゃいそうで融けちゃいそうで

雨 @ganymede102

やさしいポトフ

片付いてゆくこの部屋の隅々に味わい深くのこる夕焼け
さんかくの夢を見ているソファからだ煮崩れてしまわぬように
情熱が後からあとから溢れだし手のひとひらに蝶とびたてり
煮崩れてゆく角張ったころさえ寄り添いあえばやさしいポトフ
痛みなどもなう筈も無いように淡雪はてのひらで微睡む
遠ざかるふるさとの灯を吹き消してもう戻れない夢の途中で

望月万里葉 @peithonibon

指先

たつぷりとカフェは光を取り込んでグレースは指先に溶けゆく
まだあまり時間が経っていないのか微かに温い珈琲カップ
集団の隅での会話ぼんやりとアーケード商店街の夕
人の手という熱量を突っ込めば水槽の海老よく跳ね回る
手をつなぐ言い訳としてある暗さ星を数えて佇んでいる
ポケットは温かい場所考えがまとまらない日の川沿いに行く

森本直樹 @naohai_mori

春のことも

てのひらで雪を溶かしてあるひとの熱の在処を探してあます
へつめたーいからへあつたかーいへに一晚で塗り替へられてゐる勢力図
冬の息を吐き出すきみがいつもあつた西階段の陽だまりに猫
ふくふくと膨らむ冬の猫たちは祝福として日向の匂ひ
こたつには春のこともが眠りある 飛び出してゆく日を待ちながら
溶けてゐる猫を自然と迂回するこたつのなかの足を愛する

有村桔梗 @chatenoire_k

あたたか

あたたかな外気に触れてタンポポは黄色に成って行くのだらうか
三月は春雪舞へり自動車は春の記憶を窓に蔵して
暖冬を演出するのは風の哲学的な断章の中
温顔を抱擁して居る神々を神話の文字にとどめられなく
小説が温室栽培されて居る植物よりも繁茂し始め
大空に魚が居たら眼射する空は何時でも温暖気候

石川順一 @Hitler57

ないものねだり

春の陽でまあるいキャベツ恋するとないものねだりになるのでしょうか
もういいややさしくなくてあたたかな白いとうふのかどを蹴る夜
ぬくもりがかえってこない気がしてたスノードームの雪はまた降る
マフラーの髪の花わみとつり革に真横から射すひかりがきれい
あんなにもぼくとは違う体温で白い息したきみは可愛い
ひさかたのひかり、逆光。手を伸ばすちゃんと痛みを感じてますか

井田直 @id_na00604

十一月二日／長い夢

黒い光、それから白い闇がある 夜半の清けき集中治療室に
呼吸、吐瀉物、に混じる血、父の体よりこぼれるものが生温いこと
朦朧としたまま父が懸命に「すみません」を伝えようとする
しばし一人になるために行く病院内小売店、やばい、死ぬの、すごい、こわい
しかしあるいは自販機の冷たい珈琲が6℃の熱を持っていること
手渡した歌集を読み終えてひとこと母が「うん」とだけ言う

牛隆佑 @ushiyu31

ぼつれたぬくもり

ごめんねを君は何度もくり返し手をつけられないままのシチュー
ふたりして同じシートに絡まれて遊んだ熱をいまだ探して
一枚のカードが欲しいバイバイと書かれたカード優しい文字の
温めたホットシヨコラに少しだけ柔らかくなる冷えた爪先
冬眠は恋を忘れるためにあるぬくいベッドでからだを丸め
君のこと好きだったから気がついた涙と冬の風のぬくもり

三日月百嶺 @mikagemone

ハッチアウト

ハモンドのオルガン君が鳴らすたび光のつづが降るような午後
ありがとう気付いてくれて 3月の朝日に透ける白い手のひら
花束は世界でいちばん温かな貴方を抱いたときに似ている
新しい予感があるね 昨日より暖かい手をそっと重ねる
スキップで春が街へと押し寄せて行き場を失くした冬を拾いに
大丈夫 ホットケーキのシロップはしあわせみたいに無慈悲な甘さ

南榴夏 @blue_rebels

五本の指

冬よ来いつなぐ手を暖めるため手袋じゃなくコートを買おう
地下道に降りる階段少しだけ持ち上げた手をまた笑い合う
十五分並んで買った中華まんこれは僕らのための温度だ
春を待つように真つすぐ差し出した五本の指とひとつの言葉
すれ違うベビーカーから覗いてたねずみのような小さなミトン
あったかい手だね これから僕たちが分け合うすべて 繰り返すこと

泳二 @Eishinada

温野菜とクリームソーダ

沈黙の二人をきつと裂くように運ばれてきた温野菜サラダ
孫が見たいなんて言うなよ俺の顔見るのも一年半ぶりなのに
とりあえずビールを頼む酔えないと分かっているがエビスビールを
二十年一緒に暮らさざる母と最後に飲んだクリームソーダ
もう俺は三十過ぎだなのにまだ「かあくん」なんて小学生か
半熟の卵を混ぜる母の手の、母にも母の生き方はある

大木はち @hachidz

部屋と猫とわたし

撫でたなら微風そよかぜのよう柔らかでほのかに香る温い猫たち
新入りを威嚇する熟知ってるよ(ママの温もりわたしひとりじめ)
猫同士仲良くすればあったかいなのに取り合うミッフィの毛布
左手に老猫足にギヤル猫が甘えぽかぽかW湯たんぽ
ギヤル猫は燃えるよな熱暑がりて愛くるしさで冬溶かしてゆく
肉球の温度と愛が満ち溢れわたしの部屋は猫のお城だ

衣未 @mimi_4567

冬の月見風呂

足爪の垢もほろほろほどけゆかけ湯を流す浄めの儀礼
神々の頃より出でし湯を浴びて清冽さ増す冬の月光
灯火を落とし月見の露天風呂夜闇もほのり温かくなる
銚子盆浮かべたい風呂差し向かう月に一献盃を向け
湯に酔っているかもしれぬぼんやりと我が目の奥に宿る望月
長風呂にのぼせあがった満月が腰掛け休む黒雲の陰

宮嶋 S U K U @miyazima_izq

小春日

温もりは背中にあつて向き合わせのところに小さき風の生まれる
暖かい部屋の真ん中君がいて湯気の向こうの笑顔がぶれる
体温で温めあつた夜もある雪のふる音ふたりに聞いた

雨降って地固まるか 三寒四温 君に逢いたい

小春日の日差しほっこり縁側にふたりは猫のように丸まる

冬將軍泣いているのか小糠雨ヴェールのように街の灯つつむ

螢子 @hotaruko128

うわのそら

自販機の「あつたか〜い」が着々と「つめた〜い」になる今日この頃で
ぬくい方言ぬくいは広島弁 ぬくぬくは効果音です可愛いですね
温泉に浸かりに来たのにテレビ見てコーヒー牛乳だつて美味しい
思い出せば冬の日せわしく歩く 西東京の西たちが好き

友人から手紙が届く 今度こそラクダに乗ろうとか書いてある

夜七時、改札外のスペースでミスタードーナツ選んでる人

増田達郎 @y_aao

隅田の桜

午前中はまだほそく陽の当たる林檎などベッドにやわらかく置く
今度こそ写真ありがとつて言わなくちゃ今日あたたかくてコートいらさないよ

ストリートビューで観光案内してくれたからパソコンがあたたかい

現実というフィルターで地図はあたたかくなるこの四角に居るんだね

そよ、そよ、と都会の風はあたたかく慈悲深いのか隅田の桜

寒気 まちを覆うもの小さなヒーターがぼんやりあたたかく蜜柑を食べる

小川窓子 @madoko_o

ジョン・レノン／ぬくもり

恋なんてほんのわずかな体温であたたかくなる便座のようだ

あたたかいルートのなかに包まれてふたり静かな雨を見ている

手のひらは小さいほうがぬくもりを離さないんだ手をつなごうか

しあわせは急がなくてもいいだからふたりでぬるいココアを飲もう

ひとりではクッキーは食べきれないし紅茶も冷めてしまうしどうぞ

街にジョン・レノンあふれる抱かれない温度のことを思春期と呼ぶ

貝澤駿一 @y_xy11

朝が来るまで

会わなくて平気だという淡白なひとに惚れないための温燗
鼻先を合わせて感じる体温にしあわせというルビを振りたいたい
割り切れない想いは胸に置いたまま同じ毛布に忍ばせる足

冷え切った心に染みる甘やかな言葉がほしいひと匙でいい

縮まった距離が遠のく 花の咲く気温にさえも法則はある

さよならを取って言わないあなたよりソイラテ(ホット)の優しさが好き

真夜中 @oyasumisheep

ふゆのおさんぽ。

冷え性なわたしを深夜のお散歩に連れ出すなんて！マイナス100点
都合よくホッカイロを差し出したってすぐプラマイ0にはしてあげない
缶コーヒー？手袋？もつとあたたかかんタンなものを知ってるでしょう
服を着た犬とすれ違うときなぜかちよびり胸をはってるあなた
わがままなゆびが4本逃げ出してまた捕獲されるポケットのなか
雪色のコートを買ったこの冬は甘い歌ばかり口ずさんでる

深影コトハ @cotoha_mikage

外階段をよじ登る

この夢にラップをかけてもう1度眠りにつけばもしかしたら、と
粉末のコーンスープは溶けなくてこんな荒波立てているのに

ため息を乗せたメトロの温風を浴びてもいいと思った昨日

だらしない顔で待ってる僕を見るコンビニ弁当あと12秒

「つめた〜い」を押ししてしまった報告ができる寒くて柔らかな午後

知っている感情たちに包まれてよく眠れそうビートルズ聴く

柏瀬 @_kwkswsy3

ひとり by itself/alone/naturally

クマムシのクマの人だと聞いていた見合いの席にくまモン鎮座

縁側に眠る子猫はきなこ色夕暮れまでの光を浴びて

手袋に名前をつける遊びだけ覚えてるよ 元気でいるよ

ひとりで煮込まれていくシチューから未知なる隠し味を検出

優しさを弱い炎はできていた燐寸が朝の雪道に散る

論客がひとり世を去り残される赤福水のうつわの温み

葛紗 @blueregret

温かな終わり

むらさきとあかいむらさき境目のあたりに沈む温もりは過去
新月にすっかりなった人の名の反芻をするウールのコート
取り返しをつかない夜にマフラーを 戻れなくても暖められれば
降りだした冬のなかにも測るべき温度はあつて例えば吐息
膝がしらのぞくひとりのバスタブでサビの部分で湯気にまかせ
さよならと口に出さずにさよならを ストレイシープの脆い優しさ

風野 瑞人 @kmizuto

冬課題

冬課題、手をつけようと立ち上がる背中
の重き甲羅下ろして
来年は受験と知りつつこの夜の摩擦熱など持たぬ消しゴム
ヒーターの延長を告ぐボタン押す三時間では足りないけれど
マグカップの底に溜まりてそのままの染みにそのまま二杯目を注ぐ
提出物に優先順位つけている我に順位をつける人いる
新しくお湯を張りつつ言い訳は冷めないうちに考えておく

借みね @canimine99

春はまだか

自販機のサミシイボタンでワンカップ大関が出る町に住んでる
傘をさすほどではなくて けど少し指と背中がかじかんでいる
すぐ死ぬと思った金魚は私より長生きしている春はまだか
温まる手段は指とくちびるとなぞられるような寝息の近さ
ただ爪を噛むただ爪を噛む眠るまた爪を噛むただ爪を噛む
唇が乾きはじめる音を聴く穏やかでない春の訪れ

藤田 美香 @w_isana

onC

僕が生きている証をくれるその手の温もりが僕は好きです
どうせならもっとあたたかい愛がほしいそれはもうそうだ火傷するほど
君の名に込められた温度は三十と六とか七とかそんな感じだ
また一度上昇をした体温は君のことばと微笑みの所為
アップルワイン注ぐ貴方のその心臓と同じ温度で生きてみたくて
君になら僕の温度を奪われていいからどうか愛しておくれ

藤原 蛍 @fjwr_4on

雪の夜

レンはビンとこたつの中で蜜柑を食べる猫も中に入りこむ
レンはヒートテックビンはプレスサーモを着込み猫は毛皮をまく
レンはビンとペチカに守られて打ち明け話をする猫はねむる
オンドルで足をぬくめながらレンはあいつと寝たといいビンは泣く
ビンは泣いたのでレンも泣く猫は心配しニャアニャアと鳴き回る
こたつの上には冷めた生姜湯があるだけ猫は丸くなりてねむる

枯れ井戸 @kareido111

十八歳の約束

カフェオレを選ぶところも投げ渡すところも全部あの時のまま
指先の熱でじんわり溶けていく悲しいほどわたしチョコレート
こんなにも暖かいんだこれからはひなたを選んで歩いてみたい
ほどこいたらきつとわたしの手のひらの温度をあなたは忘れるでしょう
発熱を続ける使い捨てカイロ さめないものを疎んでしまふ
カフェオレを飲めばあなたを思い出し体温計で計れぬ熱を

きつね @001kitsune

吐瀉

抱きしめた火薬の燃えた白煙の熱が命を示す体温
食堂の換気扇から出る湯気で夜の黒さに染まらぬように
動かない猫をお腹に抱き寄せて髪は夜露で耳に貼りつく
工業排水の中でかじかんだ両手を揉んで震えをとめる
排ガスをふくらはぎに受けどこまでも冷たい街を歩けるように
ありがとう 腸はわたの煮える温度で雪の道でも体が動く

古井 久茂 @fulidom

森のクマさん

霽降る夜にフードを被りゆく君の温度に飢えたクマさん
液体になれぬふたりは苛立ちて互いの海に溶けだしたくて
滴から弾き出されて飛び散った飛沫のひとつもやはり球体
何事もなかったように消えてゆく台風だったはずの澱みも
冷え性の君はいつでも燃えやすい嘘掻き集め眠りに落ちる
「お逃げなさい」宣言してから追ってくるクマを信じて良いのでしょうか

星野 わさくら @greenchariz

人肌

君のこと「お前」だなんて呼べるから今日も寂しさ擦り合わせた肌重ね重ねしたのになれぬお前を抱き締めてイク
一昨年の手帳にはまだひらがなの体温さえも知らぬ君の名
皆帰り洗った鍋にみかん入れなお隙間ありコタツへ潜る
ゆく年もくる年さえも見れぬ部屋開けたおせちはシャリシャリのまま
早出したその抜け殻の温もりに布団の中で手を伸ばす5時

長谷川悠治 @eigazukyuji

幸せの温度

原形に戻りかけてくソファーへと飛び込み笑みを浮かべる毛玉
あたたかいことが幸せだとすれば今日の私も笑えてるはず
冷水と熱湯の間がなくなつた世界でぬるま湯を探す旅
木炭を並べただけで指先が温められたような気がした
体温が0℃になれば大抵のモノもキモチもあたたかくなる
相棒になった毛玉と寝坊して期待を込めて握るドアノブ

勇 @hayatokos

野良あがり

どのくらい野良で過ごしていたのだろう温かな場所好まぬ猫は
雪なんて降らない土地に生まれれば猫はこたつで丸くならない
型破りもらしさのひとつスイッチを切つたこたつにようやく入る
眠るよと声をかければ寝室について来るくらいには寒がり
定位置は枕の左湯たんぼの真似ごとなんてしない気高さ
暖冬といえども風の強い日はうちでいいかと背中を撫でる

木原ねこ @kharaneko

二人の出会いには四月のおわり

彼の家わざと忘れた春色を吹き消すように十九の蝋燭
珊瑚礁真夏日脱水症候群言い訳しながらしづくをなめる
乱暴な口調でおでこを引き寄せた知りたい知らない熱いてのひら
カーディガン抱きしめ眠る温もりを次会うまでに失くさぬように
冷え症の指先口付けあっためたパンのおいをおいかけていく
わたくしは守られているあたたかな確かな手のひらだから進める

九条しよーこ @shoco_chocola

日々のぬくもり

フロアーに我ひとりきり残業のコーヒーを買うあともう少し
カウンター青い背広が蕎麦すすする肩幅だけの彼の世界で
凍りつく二ワトリとどくケンタッキーあかりこうこう夜道を照らす
石ころはおかれた場所で雑草の根もとを守る花の咲くまで
ねこがまるくなるきみがまるくなるへやがまるくなるぼくはねむくなる
かんぶつややおやさかなやふるさとのこめやとうふやふるやにあきや

笛地静恵 @mundburg

春に向かう

にんげんはこんなにあつい 触れられたところから恋に落ちていきそう
夕焼けに涙がぼろりつないでた指の力が強くいたい
あいしてるあいしてるってささいやいてまいることばに包まれている
真夜中のホットミルクにはちみつを混ぜてしまったような背徳
やわらかい頬に何度もキスをしてふかいねむりをこわさぬように
ゆるやかにほだされていくここでしか生ぎられないとあきらめて春

福山桃歌 @peachsong_521

冬を抱く

冬の朝ホットミルクに張る膜のようににはじまる会えない日々は
寒空を避けて地下街あつけなく誘導される冬の迷路に
温めてほしい衝動おにぎりの中のたらこが少しふるえる
からっぽな身体が熱をうけいれた夜に湯たんぼはぬるみはじめる
いつの日か思い出となる人なれど記憶を焦がす冬の手のひら
湯たんぼに湯をこぼこぼと注いでは小さくなってゆく冬を抱く

香村かな @komukana

温かい声

冷えた風愛しなさいと育てられ冬の花には温もりがある
手を重ね体温違うことを知るさよならを言うまともなりゆく
ひだまりは温かいってわかるけどそれでもそれになりたくはない
温暖化 優しいことは出過ぎると悪女のように言われるらしい
温泉に浸かって夜空見ていたら逢いたいひとを知ってしまった
温かな声は痛みを増すらしい壊れたように泣き叫ぶひと

漕戸もり @muramy3939

すきの家で朝食を

おもぶるに平等院を差し出してすき家の朝にひかる温玉
週末をひきずる朝のテーブルにモカとトースト新聞歌壇
温泉の傍に籠をしのばせて大地の熱に蒸し上げる鳥
素うどんに内緒でいつも肉汁を加えてくれる店のおばちゃん
くつくつと雪平鍋の片隅で豆腐のふりをしている銀だら
分けあった551の蓬菜のように乗りこむのぞみとみずほ

東風めかり @mekari1573

とろけだす雪

雨だれの届かぬ窓辺うすくひかる画面に熱はこもりはじめて
雪の日に結果は届きまひるまのましろき紙に御机下とある
告知とう罰を或いは罪を得る電卓を圧す顔が見れない
ぬる爛に白子にコンピュータ言語あなたの愛するものは白いね
データ上もって五年のそのほそき指にすくわれとろけだす雪
前をゆくひとの背中に雪玉を投げる こわれる 共犯として

笹谷香葉 @sstkn

驢馬

また膝がぎしりと痛むコーヒーと驢馬から湯気をうばう暗闇
タープはタープの火は火の驢馬は吐く息の白の形に雨をさえぎる
旅の鉄則その二 どんなに寒くとも驢馬をテントに入れるべからず
ああ驢馬よ騙されなくて羽根でなくあつたかいは空気がないか
毛ブラシのような背中中に右頬を埋めれば驢馬もおしっこをする
火も消えて(冷えて)おやすみ針葉樹 驢馬の寝言はうるさい、とても

中村成志 @nakam8

小さな

産着から覗く小さな手に触れてぬくもりを確かめる朝ごと
冷えてきたからだを温めるように乳房にそっと添えられたもみじ
心地よい温みをひだりに抱きながら不可欠ということばを思う
こわい夢を見ないようにと祈りつつつと小さな毛布をかける
夢のなか動きまわっている吾子のつかれた足の止まり木になる
おでこへとそっと置かれた手のひらのひんやりとした小さなぬくもり

永山雪 @12yuki85

てのひら

てのひらをつつむのもまたてのひらでぬくもりでしかいえないことを
ほんの少し温かいんだ今誰か去ったばかりの椅子に座れば
たとえば壊れた時計のやうに死んだ鳥 掌の温み奪ひてゆきぬ
くるぐろと闇を背負いて夕暮れにくべたる薪の好ましき熱
たぶん子にもらった風邪の微熱なり木蓮の芽の和毛の柔さ
弱火でも火は火の熱さてのひらで触れば二度と消えない傷み

塩谷風月 @stugetsu

冬をはじめる

きみの待つワンルームまでが夕闇で いま焼きたてのバゲット抱いて
主よ人の望みよ喜びよ愛はスープを温めることでしょう
星の名で呼んでください朝が来れば忘れるようにいのちを燃やす
融点を合わせて眠る夜ごとに二人が少しずつ似てゆくね
雨上がりの月にやさしく照らされて咲くんでしようさざんかさざんか
あたたかな手のひらをした人として手ぶくろのない冬をはじめる

嶋田さくらこ @sakurako0304

仁慈の緒

むらさめのなごりのあめをちらしたる火扇のなげるぬくもりやさし
ほんわかとこたつのねつにとろみつ氷菓子をくちにいれてつめたし
やはらかな愛と毛布で羽籠りのいとごつつみまどろみしずむ
なごりあめだにしたたるつめたさにみぎてはずつとぬくもりのなか
おゆはんのあとにみかんをむきながらこたつにあたりしあわせあたる
おやすみにおやすみなさいおたがいにもたあしたねとやくそくするの

奈月遥 @you_natskey

体温計のなご部屋

六月の一人暮らしのカゼ引きの汗は実家のそれよりヤバイ
手の甲が息の熱さで湿りだす ペンの「梅がゆ・ポカリ」は滲み
体温計なんているとか(病気とか)春に浮かれて気づかなかった
ややぬるい冷えビタのまま横たわる 明日の天気みてないや、今日
熱があるのにぬくもりがほしいとかバカだ何度も寝返りをうつ
約三十六度八分の朝に見る「あつたかくしてねなさい」の文字

西村曜 @nsmrakira

伝える温み

寒いねと見つめあう時間永遠に続けばいいのにあたたたかい時間腕の中背中は冷えていないかと私の腕で熱をわける
ストリーブ背に肩を並べて言葉を並べて温い時間が好き
熱こもる布団一枚それだけであなたがいると一枚でいい
暖房の温度をあげる君がいつもそばにいるわけではないから
だからまた笑っていいよね指先が冷えていてもぬくもりがある

てこ @dog0003000

蠍を隠す

きつとまた愛されている自信家が そうだな、ちよっぴり弱音を吐けば
劇場に一番近い校庭で朝日浴びつつワッフルサンド
助手席に残る香りが好きなんて言われたことがまたよみがえる
受け止めた悔し涙のしみさえも消えてしまふね私の肩で
1度だけ使える魔法がとつてある手によく馴染む餡色の瓶
花嫁の肩にメイクを施して深き砂漠に蠍を隠す

外川 菊絵 @kzany

すぐそこにあるもの

簡単だ幸福なんて温室の苺畑でむさぼる果実
ころころと温泉たまご初春の賑わう街を転げてゆきぬ
ふれあいロードころげてゆけば何処かにはあるのだろうかぬくもりの宿
冷え切った部屋をのぞいて帰るだけ声もかけずに冬のひかりは
冬の陽が射しこんでくる縁側でジョンとヨーコがまだ眠っている
簡単だ永遠なんて温室の苺畑で目覚めよレノン

雀来豆 @jacksbeans2

熱情末期

巻きついて離れないロングマフラーの関係性にあなた、名前を
あのひとの心のかたち温めているうち恋のピツアが焦げる
二回めの結婚は if 陽の当たる出窓にかけた腕のきらきら
黄昏がふたつ世界にあるようで箸を突き刺すコーチンスープ
陽春のカフェであなたを思い出におさめたいのですこし泣いてね
恋に沿い恋に生きてもわたくしの行きつく春の海まだとおい

たえなかず @suzusuzu2009

首

冬へゆく吊り下げもの何もなくクレーンはつか朝日に近き
ふさわしく泣く日だまりのふいにある午後にあらゆる罪をためしぬ
街にふる そう知りながらふる雪の時のあわいに熱はこもりぬ
エレベーター下りくるとき差しこめる光。役を授けるように
はじめから震えていたり一月のあした銀杏の影があらわる
思い入れつよく月思う人になりライトアップの銀杏をくぐる

とみえひろこ @hikodori

恋の熱量

手のひらをあたためる手のひら わたしとはちがう温度で生きているひと
ねえ、と言えばあなたはそつと振り返る 風があなたの形に避ける
好きと言えば好きと帰ってくる声のあたたかさまたま守られている
オレンジのキャップのカフェオレいまはもう間接キスにも慣れてしまつて
帰ろうか、と言えば右手を握られるあたりまえへと変わる特別
冷え切った部屋で抱きしめられながらおなじ温度へ近づいてゆく

長月優 @spicadrop_

君と…

「泣くなよ」と優しく君が手を伸ばす君の温もり忘れられず
温かい君の言葉が突き刺さる嘘でいいから好きと言つて
抱きしめた温もりそつと思いだすもう居ない君面影探し
口付けの温もりがまだ残つてる君は余裕で煙草を吸つて
優しい手差し伸べるたび嬉しくて君の温もりそつと感じて
好きになる痛みを知つて涙する温もり少し残酷すぎて

高橋純 @suzaku2015

焼け野原

うさぎの群れにうずくまって眠っていたらしい恋人のぬぐせを直す
ふれたときはじめて「男だ」つて思つてそれからちよつとかなしかつた
わたしたちいつからパズル ゆびとゆびのあいだにゆびをすくりとはめる
すべすべの絵本としても残つてる、残つてる、まだ熱いてのひら
ぼるしち、と言うとき行ったこともない国にいくつも湯気たちこめる
スマホ握つたまま起きる朝いちめんに焼け野原、わたし燃えていたんだ

貴羽るき @rukitakahane

風を狩る

風を狩るきさらぎの夜の君の手に子供時代のコンパスがある
葉の落ちた枝に冬芽が立ちあがる白いうぶ毛をひからせながら
まっさきにしびれる耳をあたためる指を信じてみたかったのだ
南天は朱を入れてゆく冬枯れの街がそこから色づくように
日暮れには北寄りの風よりそつてちぎれた言葉をつないで歩く
チョコレートの硬ささびしい冬の道すこしの熱をわけてください

高松 紗都子 @satocott

温痴

顔すでに喪くししひとのぬくもりは絡めた脚の記憶と共に
関西のひとつだつたから知らないね掻巻布団にあなたとふたり
見切り品ならぶ冷凍コーナーに家族連れぬて温かさうで
追ひ焚きは出来ぬ造りのワンルームぬくもる算段それぞれがする
四年ほどエア彼氏です言ひ出せず温泉へゆく予定をかたる
温野菜食べよ食べよと親の言ふ初夏に生まれし我を氣遣ひ

竹井 佐知子 @taketake1981061

わなげ

真夜中のベンチ大きなストールを巻いて僕は解らぬさなぎ
親指も爪も大きい つつまれてしまいたいひとと並んで座る
かさかさの指をがしがし温めてくれる湿りを孕む心で
「しんどいよ」「うん、しんどいよ」僕たちは当たり前にしんどい恋だった
できそうにないことばかり数えてる僅かな熱を分け合いながら
オレンジがやけにやさしい終電の電光表示 裂かれてゆける

千原 こはぎ @kohagi_tw

指きりげんまん

天邪鬼な唇だから夜明けなど待たずブラックコーヒーにする
約束が嫌いな君に約束はしないよという嘘の約束
君という水に潜ってゆくことの 君だけだから 今だけだから
私には指しはなくてひとつにも番にもなることができない
セックスより絡む小指の体温が思い出されてしょうがないのよ
牙を向けあうようなキス爪をたてあうような恋 指きった

月丘 ナイル @nyie_222

少しだけ温かければよい

生質から取り出してすぐ捌かれた刺身なら常温で食べよう
不味の酒湯呑に注いで五十秒チンすればそれなりの温爛ぬるぬる
言い訳の後ろめたさに操られて温泉たまぐちゆくち潰す
大根をすっぱり切って皮をむくおでん鍋ぐつぐついいにおい
昨晚の湯船に残る汲み置きで白靴下の汚れを落とす
敷きっぱなしの薄い布団にもぐりこむ明日までこのまま温かい

たた @tatanon

午後3時、晴れ

退屈な時間を楽しむかのようにこぼこぼ淹れるブラックコーヒー
飲み干したコーヒーカップが寄り添ってぼかぼかほんのりたえずむ午後
窓際へ視線をやるともふもふの何かぴよこぴよこ変わりばんこに
ご近所の猫ちゃんたちが顔を出すこのひだまりは特等席ね
おかわりのコーヒーカップを握ってるきみのまわりは小春日和で
揺り椅子とブランケットに包まれてゆつたりゆらり夢の世界に

知己 凜 @Chikorin7

熱爛

徳利が風呂に入っているように柀におさまり熱爛はくる
湯上がりの少しのぼせた徳利の真白き肌を拭く豆絞り
酒のまぬわれにしあらば酒をのむきみとなりで徳利撫でる
ほのぼのと温き徳利つつみたる両手の甲の仄かな丸み
宝相華ほうそうげなりこの丸み酒器を包める両手のかたち
くだものの熟れゆく匂い日本酒にほろ酔うひとの傍に座れば

月下 桜 @tukishitau